

# 北近畿地域連携センター 平成 28 年度 年次報告書



## センター長あいさつ

このたび皆様のご理解とご支援のもと、本学の北近畿地域連携センターの施設改修が完了し、地域の皆さまと本学との本格的な協働を進める拠点が整備されましたことをご報告し感謝申し上げます。

本学は「市民の大学」「地域のための大学」「世界と共に歩む大学」を基本理念に掲げて、平成28年度に開学しました。とりわけ、設置団体である福知山市からのご支援があってこそ運営が可能となる公立大としては、「地域のための大学」は、本学が地域の皆様に果たすべき社会的責任のうち最も重いものであります。

「地域のための大学」の理念は、地域社会の実態としっかりと向き合って地域の皆様と大学との絆を共に紡ぎだすための情熱と、打ち解けて共に心を通い合わせることができる居心地の良い場があってこそ、さまざまな動きとなって具現化するのではないのでしょうか。この北近畿地域連携センター「Kita-re」は、そのような施設としてこれから成長させていきたいと願っています。

小さな大学の小さな地域連携拠点ですが、本センターが地域を元気にする種を発芽させる苗床となり、地域づくりの大木を育てる出発点になるよう、ぜひご利用・ご活用いただけますよう、お願いいたします。



福知山公立大学北近畿地域連携センター長

富野 暉一郎



## 目次

### ■ 地域連携事業

北近畿地域連携センターの概要

福知山公立大学開学記念連続講演会

地域連携研究推進助成事業

### ■ 市民学習事業

地域創生セミナー

井口学長塾

基礎から学ぶ自治体財務書類の読み方

想像と創造の翼「デザイン」の世界

### ■ 学生と地域連携

いなか留学

学生の課外活動による地域連携

## 北近畿地域連携センターの概要

### ●北近畿地域連携センターの愛称とロゴ

本学2号館を改修し、北近畿地域連携センターの施設を開設するにあたり、2016年12月6日～22日に本センターの愛称の一般募集を実施した。学内外より合計15件の応募があり、学内での投票をふまえた上で、愛称は「Kita-re」（読み方：きたーれ）に決定しました。

「Kita-re」には、北近畿地域連携センターの略称として「北近畿」の「きた」と「連携」の「れ」をつなげたという側面と、本センターに地域住民の方々が広く来てほしいという「来たーれ」という意味があるとともに、アルファベットで「Kita」の後に「re」をハイフンでつなげた部分には、何度でも来てほしいという意味合いが込められています。なお、「Kita-re」のロゴは以下の通りです。



### ●「Kita-re」の主な3つの機能

#### ①相談・紹介・コンサルテーション機能

…本学との連携に関する相談を受け付け、地域と大学との窓口としての機能があります。具体的には、講演会や委員会等への講師・アドバイザーとしての教員派遣の相談、地域団体と大学との協定の締結のための調整等などの業務が挙げられます。

#### ②企画・プロモーション機能

…地域連携事業の企画・立案、市民学習に関する企画・立案を行う機能。具体的には、地域団体と連携したイベントの実施（2016年度でいえば開学記念連続講演会等）、市民向けの公開講座の実施などが挙げられます。

#### ③調査・研究・提言機能

…北近畿地域のシンクタンクとして、北近畿地域をフィールドとした調査を実施するとともに、共同研究や受託研究を実施します。2016年度では、本学教員を対象とした研究助成事業を実施したことに加え、本センターとしても「健康経営」をテーマとした調査を実施しました。

### ●「Kita-re」の運営体制について

「Kita-re」は、本学副学長をセンター長とし、センター長のもとに地域連携担当の副センター長と市民学習担当の副センター長をそれぞれ1名ずつ置いています。また、副センター長に加え、地域連携担当の委員と市民学習担当の委員を2～3人程度置いています。（副センター長および委員は本学教員が担当）。運営にかかる事務については、「Kita-re」事務局が担当し、事務局内には専任事務職員とコーディネータを置きます。

### ●「Kita-re」へのアクセス、問い合わせ先

#### <場所>

福知山公立大学 2号館1階

#### <問い合わせ先>

京都府福知山市字堀 3770 福知山公立大学「Kita-re」

TEL:0773-24-7151

E-mail: kita-re@fukuchiyama.ac.jp

## 地域連携事業

# 福知山公立大学開学記念連続講演会

地域のための福知山公立大学に期待するもの～福知山公立大学を使いこなすために～

□京都府北部5市2町 □(開始) 2016年9月 (完了) 2016年12月 □参加者数: 840人

## 【趣旨】

本学の地域連携事業の一環として、住民の生涯学習機会の充実をはかるとともに、圏域住民の本学への関心を高めることを目的に開学記念連続講演会を開催した。2016年度は、京都府北部5市2町の各自治体と連携し、全7回実施しました。各講演会の日程等については下記の表のとおりです。

本講演会では、福知山公立大学の基本理念である“地域のための大学”が地域社会に広く周知され、大学が北近畿地域全体の社会的資源として有効に機能するために、地域課題に即した課題の提起と解決に向けて求められる論点を幅広く論じることを通じて、地域における身近な大学の役割について共通の認識を形成することを目指しました。

※それぞれの講演会の詳細については別冊の「平成28年度 開学記念連続講演会報告書」に記載しています。

## 【各講演会の日程・場所・テーマ】

	日程	場所	基調講演テーマ	講師	参加数
第1回	9月10日	福知山市	地方創生時代における地方公立大学の役割	片山 義博 氏 (慶應義塾大学教授)	200人
第2回	10月15日	与謝野町	デザインマネジメントによるまちづくり ～みえるまちをつくる～	田子學 氏 (株)エムテド代表取締役	150人
第3回	10月22日	宮津市	神山発！日本の田舎をステキに変える ～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～	大南 信也 氏 (NPO法人 グリーンバレー理事長)	80人
第4回	11月5日	伊根町	東北が取り組んでいる新しい農林水産業 ～「東の食の会」の事例紹介～	高橋 大就 氏 (一社)「東の食の会」 事務局代表	60人
第5回	11月26日	綾部市	都市農村交流から移住・定住へ	小田切 徳美 氏 (明治大学教授)	150人
第6回	12月11日	舞鶴市	クルーズ観光新時代における京都舞鶴港の可能性	山口 直彦 氏 (商船三井客船株 代表取締役社長)	150人
第7回	12月25日	京丹後市	地域資源は足元に埋まっている	高野 誠鮮 氏 (元羽咋職員)	150人

## 地域連携事業

## 地域連携研究推進助成事業

地域連携型の教育研究活動を促進し、地域・企業が抱える課題に対して大学が持つ知を活用する機会を創出することを目的に、教員の自由なテーマ・発想に基づく地域連携型の調査・研究プロジェクトを学内で公募し、審査の後、採択されたものについて支援を行いました。2016年度の本事業において採択された研究テーマは下記のとおりです。

申請者代表者	研究課題名
神谷 達夫	クラスター構築による地域産業創生研究
杉岡 秀紀	福知山公立大学における「実践教育」概念の整理および教育・評価ツールの開発
谷口 知弘	大学生が関わる多世代交流型の自治活動開発に関する基礎調査 ～空き家、空き間活用による学生が地域に暮らし・交流し・学ぶコミュニティ形成を目指して～
岡本 悦司	地方創生データウェアハウス構築に関する研究
平野 真	無形資産活用による地域観光資源開発の研究 —福知山アートプロジェクトの実践から—
佐藤 充	京都舞鶴港のクルーズ船受入機能強化に向けた比較事例研究
塩見 直紀	いま北近畿では、どこが「先進地視察」されているかに関する研究
芦田 信之	観光資源としての里山 —ヘルスツーリズムの資源開発—

## 地域創生セミナー

### 【趣旨】

市民の生涯学習の推進とともに大学を身近に感じてもらう場とすることを目的に、本学では市民学習事業を推進しています。その市民学習事業の中でも、この「地域創生セミナー」は、専門性を高めた講座としての性格を有します。また、本セミナーは、福知山市中小企業サポートセンター、(公財)京都産業21北部支援センター、他大学教員、本学教員らによる地方創生研究会が中心となり、地域課題に対してテーマを企画し、大学内外からテーマに合った講師を招き実施します。

### 【沿革】

成美大学が2015年度から開催していた「成美市民大学院(創生セミナー)」を引き継いだものです。「成美市民大学院(創生セミナー)」は福知山市中小企業サポートセンター、(公財)京都産業21北部支援センター、成美大学教員が地方創生研究会を組織し、実施していました。

■ 第1回セミナー	
タイトル	6次産業化による地域産業おこし
講演者	佐藤 晃一 (NPO 法人地域産業おこしの会 理事)
コメンテーター	田中 祐二 (立命館大学 教授)
司会	三品 勉 (福知山公立大学 教授)
開催日時	2016年9月24日 14時-17時
場所	福知山公立大学 4号館4階会議室
参加者	43人

■ 第2回セミナー	
タイトル	コミュニケーション・ツーリズムと地域活性化
講演者	中尾 誠二 (福知山公立大学 教授)
司会	谷口 知弘 (福知山公立大学 教授)
開催日時	2016年10月8日 14時-17時
場所	福知山公立大学 4号館4階会議室
参加者	26人

■ 第3回セミナー	
タイトル	国保データベースとデータヘルスへの活用
講演者	岡本 悦司 (福知山公立大学 教授)
コメンテーター	糸井 利幸 (中丹西保健所 所長)
司会	芦田 信之 (福知山公立大学 教授)
開催日時	2016年11月1日 18時-20時
場所	ハピネスふくちやま 3階会議室
参加者	37人

■ 第4回セミナー	
タイトル	地域の発展と中小企業マーケティング
講演者	田中 道雄 (大阪学院大学 教授)
コメンテーター	佐藤 充 (福知山公立大学 助教)
司会	三品 勉 (福知山公立大学 教授)
開催日時	2017年3月10日 14時-17時
場所	福知山公立大学 4号館4階会議室
参加者	12人



## 井口学長塾

「岩波新書シリーズ日本近現代史【全10巻】を読む」

### 【概要】

福知山公立大学公開講座は、本学の有する「知」と「ネットワーク」を活かして市民と共に学ぶ場を創ることにより、持続可能な地域社会形成の一助とすることを大きな目的としています。

本講座は、歴史学者である本学の井口和起学長が講師となり、岩波新書シリーズ日本近現代史をテキストに日本の近現代を学び議論することから福知山の過去と現在を振り返り未来を描く視点を獲得すると共に学びのコミュニティ形成を目指して開講しました。

開塾に向けて井口学長は次のメッセージを発信しました。「私たちはどんな時代を生活しているのか？この地域はどう変わってきて、これからどう変えていけるのか？こんなことを考える出発点になればと企画しました。少し量が多いので大変かも知れないけれど、さまざまな人たちと同じ本を一緒に読み話し合うと、人によって読み方に大きな違いがあることにも気づかされて面白くなっていきます。仲間に加わってくださる社会人の方々や大学生・高校生のみなさんを募っています。」この呼びかけに応じて、定員を超える30余名の共感を得て本講座は始まりました。回を重ねるごとに新たな参加者も加わり、毎回井口学長と塾生の活発な問答が行なわれて、対話を通して近現代史への関心と理解を深める学びのコミュニティが形成されつつあります。次年度も継続して開講することが決定しており、井口学長を囲む学びのコミュニティから福知山や北近畿の文化振興に貢献する人財が育つことへの期待が高まります。

また、会場には上述した市民と共に学びのコミュニティを形成するための場として大学キャンパスを飛び出し、広小路商店街のカフェ「古本と珈琲モジカ」を選びました。このカフェは、ブックキュレーターを擁し、北近畿屈指の古本のコレクションを有しており、地域の文化醸成にとって重要な場です。地域と共に歩む大学として、このように社会的に価値の高い事業を展開する民間事業者と協働することで文化の醸成において相乗効果を生み出すことを意図したものです。

### 【日程】

	開催日	時 間	場 所	参加人数
第1回	11月26日	10:00～12:00	古本と珈琲モジカ	34人
第2回	12月10日			27人
第3回	12月24日			27人
第4回	1月21日			31人
第5回	2月4日			29人
第6回	2月19日			25人
第7回	3月4日			23人



## 【アンケート結果】

本講座にて実施したアンケートの結果について、主な意見を抜粋し、以下に掲載します。

### ＜今年度計7回の公開講座「井口学長塾」はいかがでしたか＞

- ・知らなかったことがあまりにも多いことに気づいた。
- ・井口先生の講義を本当に身近に聞ける貴重な機会だった。
- ・気軽に発言や質問ができることは大変良かったが、発言のタイミングは少し考慮が必要と反省している。
- ・今後も継続してほしい。
- ・一人では絶対読めない本を読めたことは貴重だった。とても楽しんでいる。
- ・毎回楽しかった。

### ＜公開講座に期待されるテーマは＞

- ・人口減と今後の政策
- ・地域づくり、地域おこし
- ・原資料の読み合わせ、読解の仕方、歴史的な位置づけ、意味の学習など。
- ・地域文化論やその他多方面に渡る興味あるテーマがあれば参加したい。
- ・近代史も大切だが現在、将来に大きな影響を与えた現代史を重点的に取り上げてほしい。

### ＜福知山公立大学に期待すること、その他の意見＞

- ・地域特産との関連付けた運営
- ・ぜひ、京都府北部の大学として発展させてほしい。高校生の進路希望の状況を踏まえて、学部・学科の再編も必要だと思う。
- ・地域の時代と言われて久しいが、実際は中央への集中が進行した。地域には多様な文化が存在する。地域文化・地域経済に貢献されることを期待している。
- ・福知山公立大学にまだ一度も行ったことがないので、一度大学構内で開催してほしい。
- ・大学と地域で連携して地域づくりが進められているが、まだ限定的だ。取り組んでいる内容をもっと公開していけば関わる人が増えるのではないか。

# 基礎から学ぶ自治体財務書類の読み方

～基本的理解ができるまで、とことんご説明～

□2016年11月16日 13:00～16:50 □福知山公立大学4号館1階 4102講義室

## 【概要】

厳しさを増す地方財政のもと、多様化する行政ニーズに対応するため、効率的かつ有効な行政経営を実践するために、従来の自治体会計（単式簿記・現金主義）にくわえ、複式簿記・発生主義による「新地方公会計」の本格導入が目前に迫っています。福知山公立大学では、京都府・兵庫県の自治体職員を対象に、企業会計の基礎や自治体会計における財務書類等の活用方法について、本学教員による分かりやすい講義を行なうとともに、総務省の担当官から国の最新の動向をご説明いただきました。

本講座の主な目的は、下記のとおりです。

- ① 自治体の財政・会計担当者だけでなく全部局の職員を対象とした企業会計の入門講座。
- ② 総務省担当官による地方公会計制度の最新の動きの説明
- ③ 自治体における地方公会計制度の活用に向けた事例紹介

## 【プログラム】

- 13:00 開 会
- 13:20 次年度導入の新地方公会計の利活用について  
福知山公立大学教授 遠藤 尚秀
- 14:00 企業会計方式による会計とは（企業会計制度基礎講義）  
福知山公立大学教授 吉田 周邦
- 15:20 休憩
- 15:30 「統一的な基準」による地方公会計の最近の動きについて  
総務省自治財政局財務調査課課長補佐 中尾 正英
- 16:50 閉 会

## 【講師プロフィール】

総務省自治財政局財務調査課課長補佐 中尾 正英

- 平成17年4月 総務省入省
- 平成22年4月 宮崎市総務部長
- 平成24年4月 復興庁参事官補佐
- 平成26年4月 福井県総務部財務企画課長
- 平成28年4月より現職。地方公会計制度推進を担当



福知山公立大学 教授 吉田 周邦

【専門分野:財務諸表論、簿記論、会計監査論、国際会計論、国際監査論 \*公認会計士】  
会計監査における「虚偽表示の発見」に不可欠な職業的懐疑心が、監査法人などの監査組織において有効に発揮されるためにはどのような方策・方法が必要かを主たる研究対象としています。(経歴:外資系監査法人パートナー、岡山大学を経て本学。(元)国立大学法人大阪大学監事)



福知山公立大学 教授 遠藤 尚秀

【専門分野:管理会計、内部統制、公会計・公監査 \*公認会計士・勅許公共財務会計士】  
海外および日本におけるパブリック・ガバナンス、マネジメントの発展と関連して、公会計・公監査・内部統制等に関する理論とグッド・プラクティスを研究。(経歴:国内監査法人パートナー、元日本公認会計士協会公会計担当常務理事、包括外部監査人、総務省・財務省の各種委員会委員、JIAM・自治大学などの講師を歴任)



## 【アンケート結果】

## アンケート実施概況

参加者数	58人
アンケート回答者数	56人
回収率	97%

## Q1：所属自治体について（※回答なし・不明：4）

福知山市	丹波市	綾部市	豊岡市	舞鶴市	京丹後市	南丹市	宮津市	与謝野町	朝来市	京丹波市
18	7	6	5	5	3	2	2	2	1	1

## Q2：所属部署について（※回答なし・不明：22）

財政課	監査委員事務局	資産活用課	上下水道部	総務課	会計課	企画課	企画財政課	行政経営課	社会福祉課	税務課
19	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1

## Q3：「次年度導入の新地方公会計の利活用について」（※回答なし・不明：1）

大変勉強になった	勉強になった	どちらとも言えない	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
11	32	9	2	1

## ＜感想＞（一部抜粋）

- ・基礎の導入部分について知ることができ、利活用の必要性について再確認できた。
- ・類似自治体との比較検証を行うことが容易になる。危機感を持たねばならない。
- ・まだ見える成果がないので、ピンとこなかった。

## Q4：「企業会計方式による会計とは」（※回答なし・不明：1）

大変勉強になった	勉強になった	どちらとも言えない	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
16	34	5	0	9

## ＜感想＞（一部抜粋）

- ・公会計での財務帳と公営企業会計での財務帳の違いを認識できた。
- ・具体的な例を挙げて分かりやすかった。
- ・複式簿記の基本となる仕訳について、初心者には少しペースが早かったかもしれない。

## Q5：「『統一的な基準』による地方公会計の最近の動きについて」（※回答なし・不明：2）

大変勉強になった	勉強になった	どちらとも言えない	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
20	33	5	0	9

## ＜感想＞（一部抜粋）

- ・全体的な話だけではなく、最近通知のあった「あり方に関する研究会」の概要について理解できた。
- ・資産の「見える化」や「老朽化対策」等、台帳の整備や活用方法が重要であると感じた。
- ・言葉が難しく、理解できなかった。

## Q6：次回、受講したい会計講座のテーマを教えてください。（一部抜粋）

- ・複式簿記の演習。
- ・公会計の実際の仕訳例。標準ソフトウェアを使用した仕訳。
- ・法人会計について。
- ・決算の見かた、作り方。
- ・今回は基本的な内容だったので、上級レベルの講座。

市民学習事業 [若者キャリア支援講座]

# 想像と創造の翼「デザイン」の世界

～NHK 大河ファンタジー「精霊の守り人」に見るファンタジー世界創作の舞台裏～

□2016年11月24日 18:00～20:00 □市民交流プラザふくちやま 3F 市民交流スペース

主催：福知山公立大学 共催：NHK 放送総局デザインセンター

## 【概要】

本講座は、公立高校3校、私立高校3つと市内に6つの高等学校が集積し、京都北部や北近畿一円から若者が集う福知山市において、大学生に加えて高校生を主な対象としたキャリア教育支援の充実に寄与することを目指し「若者キャリア支援」として開講しました。

今年度は試行実施としてNHK放送総局デザインセンターと協働し美術・音響デザインの世界を学ぶ公開講座を実施しました。講座は3部構成とし、本学教員とNHK放送総局デザインセンターがリレー講演を行った後、参加者が小グループに分かれて気づきを共有し自身の将来の仕事を語り合うワークショップを行いました。

本学の谷口知弘教授は、「想像と創造の翼『デザイン』の世界」と題して、自身がデザイナーを目指す契機となった中学生の頃のエピソードなどを紹介し「デザイン」の世界に関心を抱いてからのキャリアとデザインの魅力について語りかけました。次に、NHK放送総局デザインセンターからNHK大河ファンタジー「精霊の守り人」の制作現場から映像デザイナー2人と音響デザイナー2人が登壇した。「仕事との出会い」をテーマに自己紹介から始まり、「空想の世界をつくるデザイン～NHK大河ファンタジー『精霊の守り人』に見るファンタジー世界創作の舞台裏」と題して、「精霊の守り人」のメイキング動画を投影しながら、架空の世界の生活や空間をデザインする映像デザインの仕事と音で映像にさらなる臨場感を加える音響デザインの仕事を紹介しました。講演を受けてのワークショップでは、「私の想像と創造の『翼』を語ろう」をテーマに参加者同士で対話を行いました。放送部や美術部で活動する高校生は自身の将来と重ねて夢を語るなど、プロフェッショナルの仕事に触れ大きな刺激を得る場となりました。また、アンケートより「満足」と「大変満足」は合わせて88%と高い満足度でした。

## 【プログラム】

開会挨拶（福知山公立大学学長 井口和起）

### 1. 想像と創造の翼「デザイン」の世界

福知山公立大学教授 谷口知弘

### 2. 空想の世界をつくるデザイン

～NHK大河ファンタジー「精霊の守り人」に見る  
ファンタジー世界創作の舞台裏～

NHK放送総局デザインセンター

映像デザイン部 山口類児、枚本利奈

音響デザイン部 副部長 和田尚也、

柴田なつみ

### 3. ワークショップ

「私の想像と創造の『翼』を語ろう」

閉会挨拶（NHK放送総局 デザインセンター）



## 【アンケート結果】

## アンケート実施概要

参加者数	46人		
回答者数	43人		
性別	男性：17人	女性：21人	不明：5人
回収率	93%		

## Q1：年齢について（※回答なし・不明：1）

10歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
1	29	5	2	3	1	1

## Q2：公開講座の内容について（※回答なし・不明：0）

大変満足	満足	普通	不満
16	34	5	0

## ＜感想＞（一部抜粋）

- ・高校でデザイン学科に通っているが、デザインについてあまり意識したことがなかったので、驚いた。
- ・興味深い内容に時間のたつのを忘れた。
- ・映像を見るだけでは分からない手間がかかっていることが分かった。
- ・自分の知らない世界を知れて楽しかった。一から音や岩を造る作業に興味があった。
- ・私が高校の放送部で見てきた製作との違いを痛感した。映像からイメージを膨らませ、そこにない音を考え、音を作り出すということはこれまでにない発想だった。

## Q3：参加して、NHKへの印象に変化はありましたか（※回答なし・不明：2）

親近感・好感度が上がった	親近感・好感度が下がった	特に変わらない	その他
27	1	13	0

## ＜感想＞（一部抜粋）

- ・NHKではなく、デザイナーという仕事への好感度は上がった。
- ・NHKの硬いイメージから、明るいイメージに変わった。
- ・テレビ局は高学歴というイメージがあったが、そうでもないとわかった。
- ・以前からNHKが好きだったが、信頼感がさらに増した。

## Q4：参加して、テレビへの印象に変化はありましたか（※回答なし・不明：1）

親近感・好感度が上がった	親近感・好感度が下がった	特に変わらない
27	1	13



<感想> (一部抜粋)

- ・一つの作品に関わっている人が多く、手間がかかっていると思うと、見方が変わった。
- ・テレビを違う方向から見てもおもしろいだろうなと思った。
- ・番組の裏側で動いている人の熱意が伝わった。

Q5：「TV局のデザイナー」という仕事について (※回答なし・不明：0)

興味がわいた	特に変わらない	その他
32	10	1

<感想> (一部抜粋)

- ・いろいろな効果音を作るのは、楽しそうだった。
- ・空想の世界を創るのは大変だと分かった。そのうえで、楽しそうだと感じた。
- ・地道な作業が多いと思うが、一から創り上げるということに興味があった。
- ・デザイナーの仕事をもっと知りたいと思った。

Q6：これまでに大河ファンタジー「精霊の守り人」をご覧になりましたか (複数回答可)

(※回答なし・不明：4)

番組宣伝は見たことがある	一部分だけ見た	一話だけ見た	二話見た	三話見た	四話とも見た	NHKオンデマンドで見た	知らなかった
11	1	1	1	1	2	0	23

<感想> (一部抜粋)

- ・映像と効果音が人を引き付けるラストシーンが印象に残った。
- ・バルサの戦闘シーン、竜世の怒り狂うシーンが印象に残った。
- ・第1話のバルサが殴られるシーンは、原作とは異なる物語にするという意志を感じた。
- ・宮殿のシーンの装飾が細かくてひきこまれた

Q7：普段、情報を入手するのに最も利用するメディアは何ですか？ (複数回答可)

(※回答なし・不明：2)

テレビ	携帯端末	パソコン	新聞	雑誌	ラジオ	口コミ	その他
22	34	14	4	5	2	2	0

Q8：テレビではどんなジャンルの番組をよく視聴されていますか？ (複数回答可)

(※回答なし・不明：3)

ニュース報道	ドキュメンタリー・教養	ドラマ	スポーツ	バラエティー	情報・ワイドショー	音楽	アニメ	映画
20	6	19	8	18	6	11	16	16

Q9：民放のテレビ番組のセットと比べた場合、NHKの番組のセットで違いを感じますか？

とても違いを感じる	少し違う	変わらない	意識したことはない
27	1	13	0

Q10：民放のテレビ番組のセットと比べた場合、NHKの番組のセットで違いを感じますか？

- ・NHKはシンプルである。
- ・ドラマへの深みを感じる。
- ・NHKは臨場感が違う。
- ・見ごたえがある。真実味がある。

Q11：民放も含めテレビの番組で印象に残っているもの、あるいはよくご覧になる番組があれば、その理由もお書きください

- ・ 歴史秘話ヒストリア  
歴史にはあまり登場しない人物の人生をおもしろおかしく紹介しているから。
- ・ 情熱大陸  
多様な分野が取り上げられ、知らない仕事も興味を持てるから。
- ・ 逃げるは恥だが役に立つ  
きゅんきゅんするから。
- ・ LIFE！ ～人生に捧げるコント～  
面白いし、見ていて穏やかになれる。元気が出てくる。

Q12：福知山公立大学の公開講座について、期待されるテーマなどご意見をお聞かせください

- ・ プランナーの仕事など、よくわからない職業について。
- ・ まちづくり、人づくりに関すること。
- ・ テーマは何でもよいが、公開講座があるという発信を多くしてほしい。
- ・ 都会に出向かなくても、学べる機会をどんどん増やしてほしい。様々な道のプロや、地域で頑張っている方の話も聞きたい。
- ・ コミュニティデザインについて。

Q13：その他ご要望、ご感想等お書きください

- ・ 番組作りの裏側がよくわかり、高校生の娘にこんな仕事があるということを教える機会にもなり、とても有意義でぜいたくなひと時だった。谷口先生も一人一人に声かけをされていて、好感が持てた。
- ・ 映像がすごくゾクゾクして鳥肌がたった。
- ・ 音ってすごい！

## いなか留学

□2016年7月～9月

### 【目的】

本事業は、福知山公立大学北近畿地域連携センターと一般社団法人京都府大学連携機構(CUANKA)が、本学学生および京阪神地域の大学生向けに、フィールドスタディ・プログラムを共同で企画・実施したものです。

その目的は、前年度まで CUANKA で展開されてきた同事業を活用し、連携センターと京都府北部地域との間でネットワークを形成すること、本学学生に実践的な学習機会を提供すること、そして、本学学生と他大学の学生との交流の場を創出することの3点が挙げられます。あわせて、本事業は、本学とCUANKA が参加する「大学間連携共同教育推進事業（龍谷大学代表校）」において開発された「初級地域公共政策士」の資格教育フレームワークに準拠したアクティブラーニング・プログラムの開発を試みるものでもありました。

なお、本事業の実施にあたっては、公益財団法人大学コンソーシアム京都の後援を受けるとともに、大学間連携共同教育推進事業の一環としても位置付けられています。

### 【事業概要】

いなか留学は、京都府北部地域をフィールドにした現場体験型の学習プログラムで、それぞれのプログラムにおいては、京都府北部地域が抱えるさまざまな地域課題がテーマとして掲げられ、地域で活躍されている方々との交流を通じて、地域の魅力発見や課題解決に向けた取り組みに参加するものでした。各プログラムは、8月から9月までの夏休み期間に、京都府北部地域3市2町（福知山市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町）をフィールドにして実施され、農林漁業、観光、地域ブランディング、6次産業化がテーマとなりました。

本事業に参加する学生は、「初級地域公共政策士」の資格教育フレームワークをベースにした「学習アウトカムと学習内容の関連モデル」に基づき、事前・事後の研修、フィールドワーク、レポート作成に取り組みました。

<図表1 いなか留学のフロー>



### 【実施報告】

今年度のいなか留学では、8つのプログラムが企画され、そのうち5つのプログラムが実施されました。事前研修は2016年8月5日に龍谷大学で開催し、プログラムは同年8月中旬から9月中旬までの間で実施した。そして、事後研修は同年9月24日に龍谷大学で開催しました。

参加者数は19人で、大学別の内訳をみると、本学1人、龍谷大学7人、京都産業大学4人、京都大学2人、同志社大学2人、立命館大学2人、東北大学大学院1人となった。多くの参加者からは、「とても貴重な体験ができた」、「多くの刺激を受けることができた」、「さまざまなことを学ぶ機会となった」といった評価の声がありました。

<図表2 いなか留学のプログラム一覧>

プログラム名	受入協力	地域	日程	定員	参加数
地域の資源をとことん！プロデュースする5日間	丹波の自然を守る会	宮津市 与謝野町	8月25日 ～29日	5	5
天橋立で「旅」の可能性を探る6日間	天橋立ユースホステル	宮津市	9月1日 ～6日	5	5
伊根の移住プロモーションを考える7日間	伊根町地域おこし協力隊	伊根町	9月12日 ～18日	5	3
知られざる観光エリアをプロデュースする3日間	大江山グリーンロッジ	福知山市	9月6日 ～8日	5	3
有機農家でガッツリ働く7日間	梅本農園	京丹後市	8月27日 ～9月3日	2	0
果樹園でガッツリ働く7日間	白岩農園	京丹後市	9月3日 ～9日	3	0
山の豊かさと営みを知る5日間	しおぎり荘	しおぎり荘	8月22日 ～26日	5	3
中山間地農業の可能性（特産品開発・新規就農）を体験する5日間	三和地域づくり協議会	福知山市	8月30日 ～9月3日	3	0

◆事前研修の様子



◆プログラムの風景



◆事後研修の様子



## 学生の課外活動による地域連携

### 【趣旨】

地域と連携した活動を推進するとともに、学生に多様な学びの機会を提供するため、学生の課外活動の企画・支援を実施しました。そのうち代表的なものとして以下の4点を紹介します。

#### ●学生チームが地域イベントに協力！

- ・名称：丹後由良プロジェクト
- ・時期：2016年9月～11月

学生6人（地域経営学科1回生5人、医療福祉マネジメント学科1回生1人）が、宮津市の丹後由良地区の「安寿亭」で開催された「ちーびずりレーマルシェ ゆら・安寿亭フェス」（2016年11月23日）に協力しました。

9月から、プロジェクトがスタートし、イベントの開催に向けて、安寿亭の方々とともに、ポスターの作成や提供商品の企画に取り組みました。イベント当日は、試作を重ねた商品（おにぎり）の販売や会場運営の補助を行いました。

#### ●デザインの力で老舗店舗の商品をPR！

- ・名称：商店街魅力発信プロジェクト ふくちやまデザイン・チャレンジ
- ・時期：2016年11月～2017年3月

学生3人（地域経営学科1回生2人、医療福祉マネジメント1回生1人）が、福知山まちづくり株式会社や企業経営者やデザイナーらによるNPO法人E-growsの協力を受けて、福知山市の中心市街地にある山城屋茶舗の商品PRに取り組みました。

大正元年創業の山城屋茶舗は、日本茶と茶道具の専門店、地元産玉露を用いた「ふくちやま茶」や自家焙煎による「ラテに合うほうじ茶」といった新商品を販売します。学生らは、店主の方々へのインタビューを重ねるとともに、専門家との議論を通して、山城屋茶舗の商品を訴求する媒体を取りまとめます。

#### ●北近畿の「いいもの」取材し、デジタルサイネージを作成！

- ・名称：北近畿「いいもの」発信プロジェクト
- ・時期：2016年10月～2017年3月

学生7人（地域経営学科1回生6人、医療福祉マネジメント学科1回生1人）が、JR西日本福知山支社との連携のもと、城崎温泉駅「但馬・丹後いいものショップ」にて販売される様々な地域商品の魅力を発信するため、駅に設置されたディスプレイに映し出すデジタル画像を作成しました。

「但馬・丹波いいものショップ」に商品を提供している生産者のうち、10月には4社をピックアップし、各生産者に取材を行いました。また、その4社を紹介する画像については、11月の城崎温泉駅リニューアルオープンにあわせて1社あたり5枚、計20枚の画像を作成しました。その後も、定期的に地域商品の生産者への取材を続けるとともに、新しいデジタル画像の作成をつづけています。

●NPO、高校生と商店街のアーカイブづくり！

- ・名称：商店街アーカイブづくり
- ・時期：2016年9月～2017年3月

学生2人（地域経営学科1回生1人、医療福祉マネジメント学科1回生1人）が、ICTを活用した地理教育を推進するNPO法人伊能社中と連携し、商店街に関する記録を収集することを目的に、福知山成美高校の生徒とともに商店街へのフィールドワークや高校でのワークショップに取り組みました。

9月から、プロジェクトがスタートし、商店街や福知山まちづくり株式会社の方々へのインタビュー調査を行いました。また、学生らは、伊能社中からのアドバイスを受けながら、高校生のグループワークを運営しました。今後は、聞き取った内容や収集した資料から、商店街の価値や魅力を検討していきます。

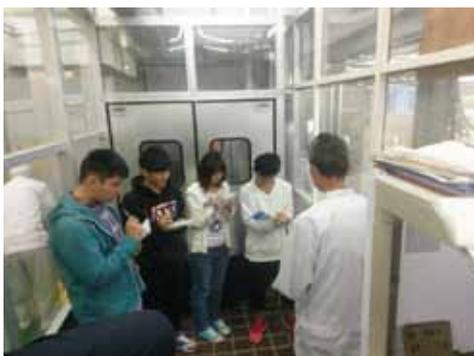
◆丹後由良プロジェクトの様子



◆商店街魅力発信プロジェクトの様子



◆北近畿「いいもの」発信プロジェクトの様子



福知山公立大学 北近畿地域連携センター  
**平成28年度 年次報告書**  
2017年3月 発行

---

発行所 福知山公立大学北近畿地域連携センター  
〒620-0886 京都府福知山市字堀3770  
TEL: 0773-24-7151  
E-mail: kita-re@fukuchiyama.ac.jp

印刷所 株式会社タカギ印刷  
〒620-0035 福知山市内記1丁目44-11  
TEL: 0773-22-3166 FAX: 0773-22-3167





福知山公立大学

The University of Fukuchiyama

北近畿地域連携センター

市民学習・キャリア支援センター

---

〒620-0886 京都府福知山市字城3370

TEL.0773-24-7151 FAX.0773-24-7170

E-mail:kita-re@fukuchiyama.ac.jp

<http://www.fukuchiyama.ac.jp>

---